

令和5年度第1回 インターネット都政モニターアンケート

「薬物乱用に対する意識」

調査結果



調査実施の概要

- 1 アンケートテーマ
薬物乱用に対する意識
- 2 アンケート目的
薬物乱用対策の参考とするため、薬物に対する意識や薬物乱用防止に関する都の施策について、都民の意見を聞く。
- 3 アンケート期間
令和5年6月27日（火曜日）から7月6日（木曜日）まで
- 4 アンケート方法
インターネットを通じて、モニターがアンケート専用ホームページから回答を入力する。
- 5 インターネット都政モニター数
500人
- 6 回答者数
489人
- 7 回答率
97.8%

薬物乱用に対する意識

1 調査項目

- Q 1 知っている乱用薬物
- Q 2 大麻について知っていること
- Q 3 大麻について見聞きしたことがある情報
- Q 4 市販薬の過剰摂取について知っていること
- Q 5 市販薬の過剰摂取への意識
- Q 6 市販薬の過剰摂取を構わないとする理由
- Q 7 市販薬の過剰摂取の危険性
- Q 8 薬物を使った場合の心身への影響について知っていること
- Q 9 薬物を使った場合の社会生活への影響について知っていること
- Q 10 周りに薬物を使用している人がいた場合の行動
- Q 11 薬物の使用をやめられない人に対する意識
- Q 12 薬物に関する情報を見聞きする機会
- Q 13 知っている東京都の啓発活動
- Q 14 薬物乱用について知りたいこと
- Q 15 若者に対する啓発のアプローチとして効果的なもの
- Q 16 知っている薬物に関する相談窓口
- Q 17 力を入れてほしい薬物乱用防止対策
- Q 18 薬物乱用について（自由意見）

2 アンケート回答者属性

		モニター 人 数	回 答		
			人 数	構成比	率
全 体		500	489	-	97.8
性 別	男性	250	245	50.1	98.0
	女性	250	244	49.9	97.6
年 代 別	18・19歳	10	10	2.0	100.0
	20代	69	67	13.7	97.1
	30代	77	74	15.1	96.1
	40代	92	91	18.6	98.9
	50代	87	84	17.2	96.6
	60代	59	59	12.1	100.0
	70歳以上	106	104	21.3	98.1
職 業 別	自営業	48	47	9.6	97.9
	常勤	222	217	44.4	97.7
	パート・アルバイト	72	70	14.3	97.2
	主婦・主夫	68	68	13.9	100.0
	学生	30	30	6.1	100.0
	無職	60	57	11.7	95.0
居住地域別	東京都区部	344	336	68.7	97.7
	東京都市町村部	156	153	31.3	98.1

※ 集計結果は百分率（%）で示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。

そのため、合計が100.0%にならないものがある。

※ n (number of cases) は、比率算出の基数であり、100%が何人の回答者に相当するかを示す。

※ 複数回答方法・・・(MA) =いくつでも選択、(3MA) =3つまで選択、(2MA) =2つまで選択

東京都は、薬物乱用防止に向けた啓発活動の拡大と充実、指導・取締りの強化、薬物問題を抱える人への支援に関する取組を推進しています。

昨今、大麻に害はないという誤った情報が SNS などでも広がっていることも一因となり、若者を中心に大麻乱用が拡大しています。また、市販薬（かぜ薬など）の過剰摂取（オーバードーズ）も社会問題化しており、薬物乱用は、深刻な状況です。

今年度は、東京都薬物乱用対策推進計画（平成 30 年度改定）の改定を行い、より一層の対策強化を予定しています。

薬物乱用対策のさらなる取組の参考とするため、都政モニターの皆さまのご意見をお伺いします。

東京都薬物乱用対策推進計画（平成 30 年度改定）

https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/anzen/kenkou_anzen/suishin/keikaku_h30endo_kaitei.html

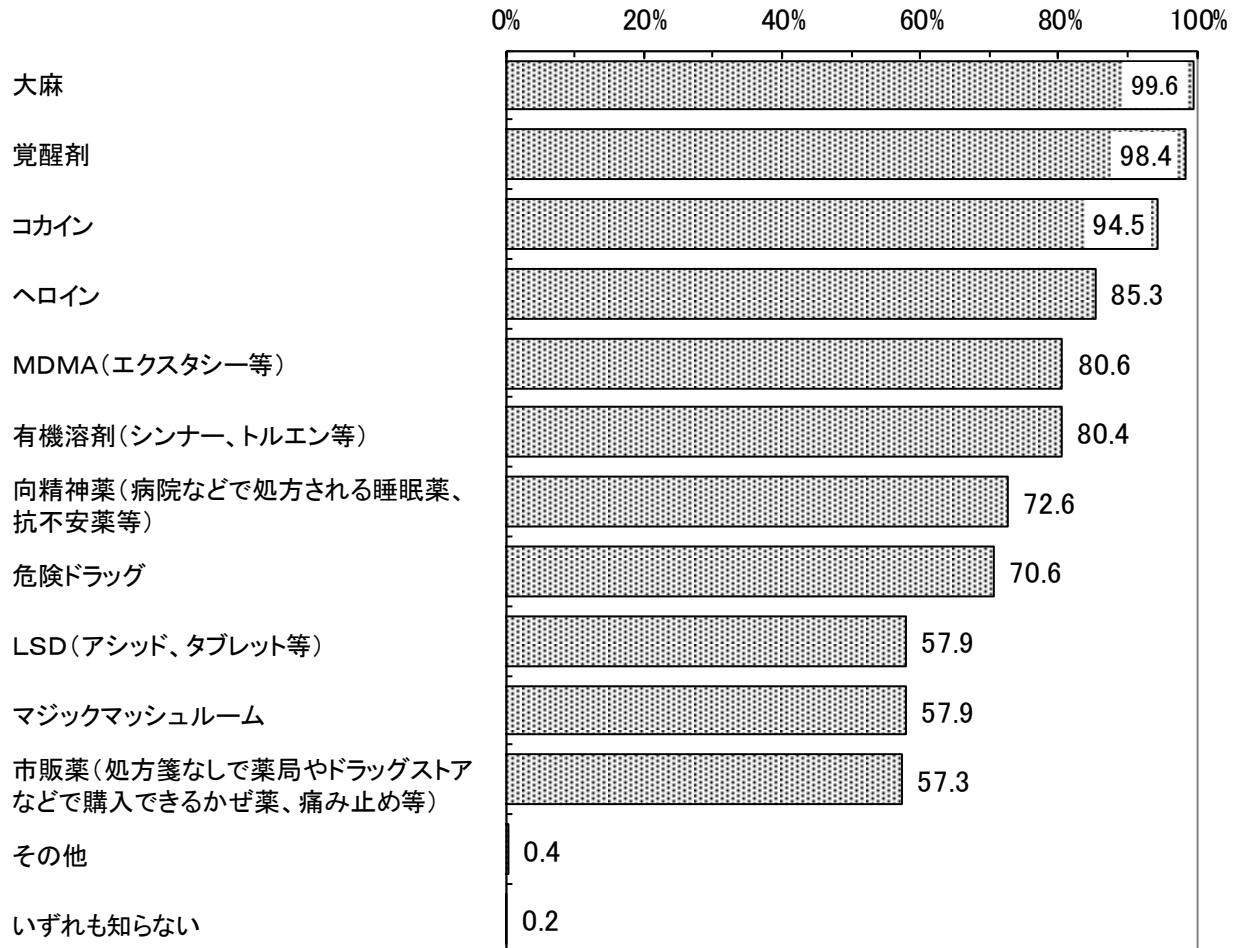
薬物乱用の基礎的知識

https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/anzen/kenkou_anzen/stop/kiso/index.html

知っている乱用薬物

Q1 乱用されている薬物として、あなたが知っているもの、聞いたことがあるものは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

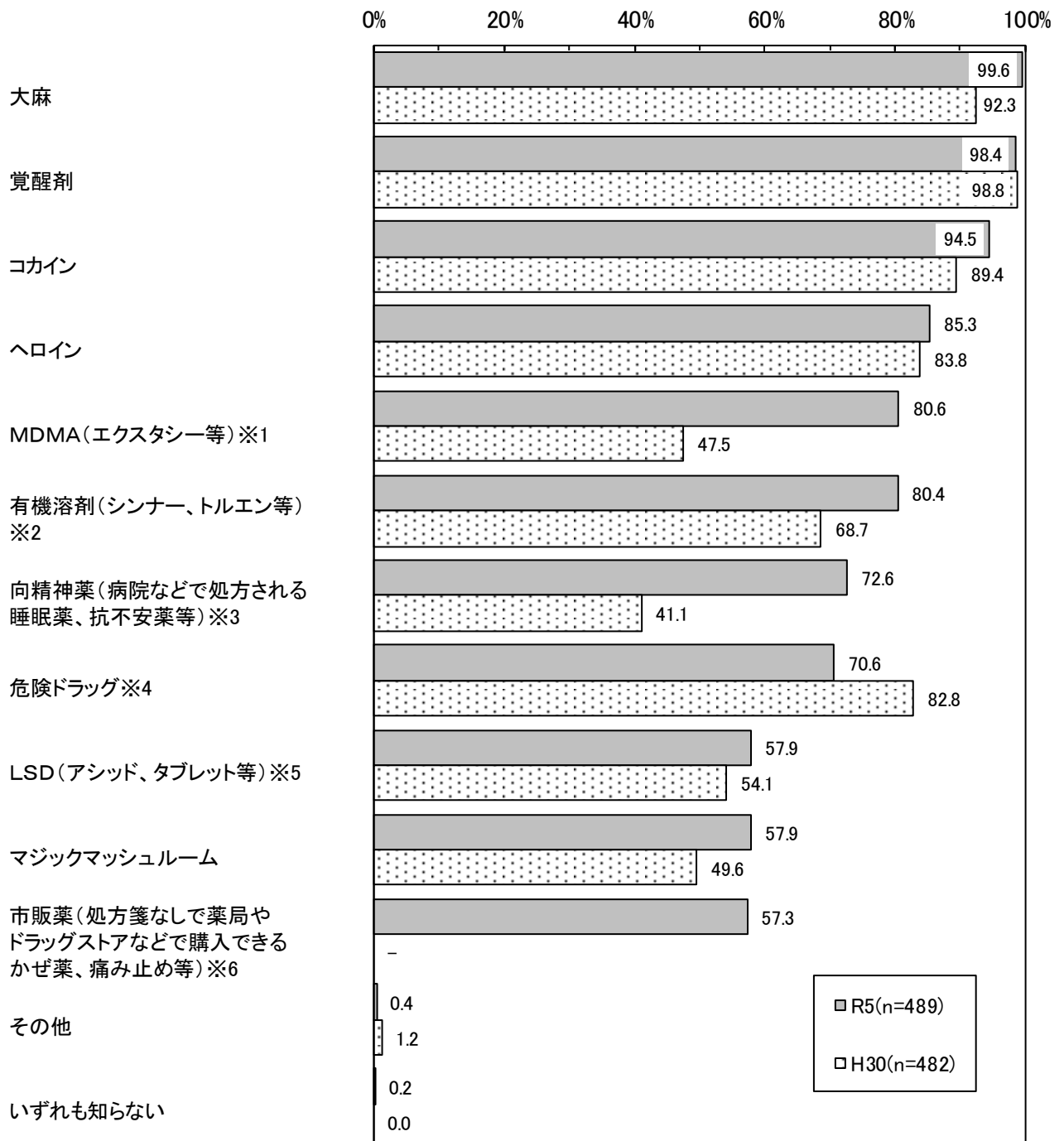
(MA) (n=489)



【調査結果の概要】

乱用されている薬物として知っているもの、聞いたことがあるものを聞いたところ、「大麻」(99.6%)、「覚醒剤」(98.4%)は、全数近くが答え、以下、「コカイン」(94.5%)、「ヘロイン」(85.3%)などと続いている。

◎前回調査との比較〈前回：平成30年9月実施「薬物乱用に対する意識」〉



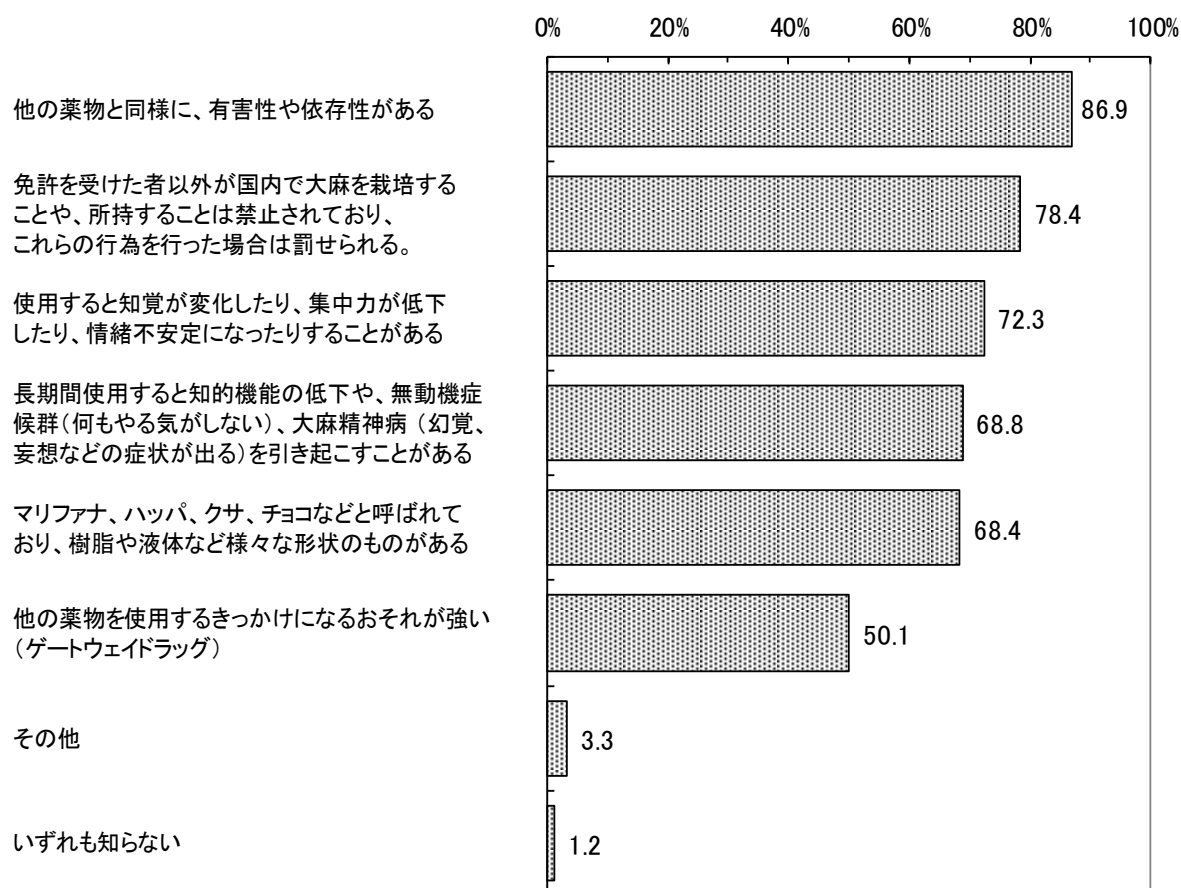
- ※1 前は「MDMA」で集計
- ※2 前は「有機溶剤(シンナー、トルエンなど)」で集計
- ※3 前は「向精神薬」で集計
- ※4 前は「危険ドラッグ(脱法ドラッグ、合法ドラッグなど)」で集計
- ※5 前は「LSD」で集計
- ※6 前は選択肢なし

大麻について知っていること

Q2 Q1で「大麻」を選択した方に伺います。

近年、大麻事犯の検挙人員が増加傾向にあります。大麻に関して、あなたが知っていることは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

(MA) (n=487)



【調査結果の概要】

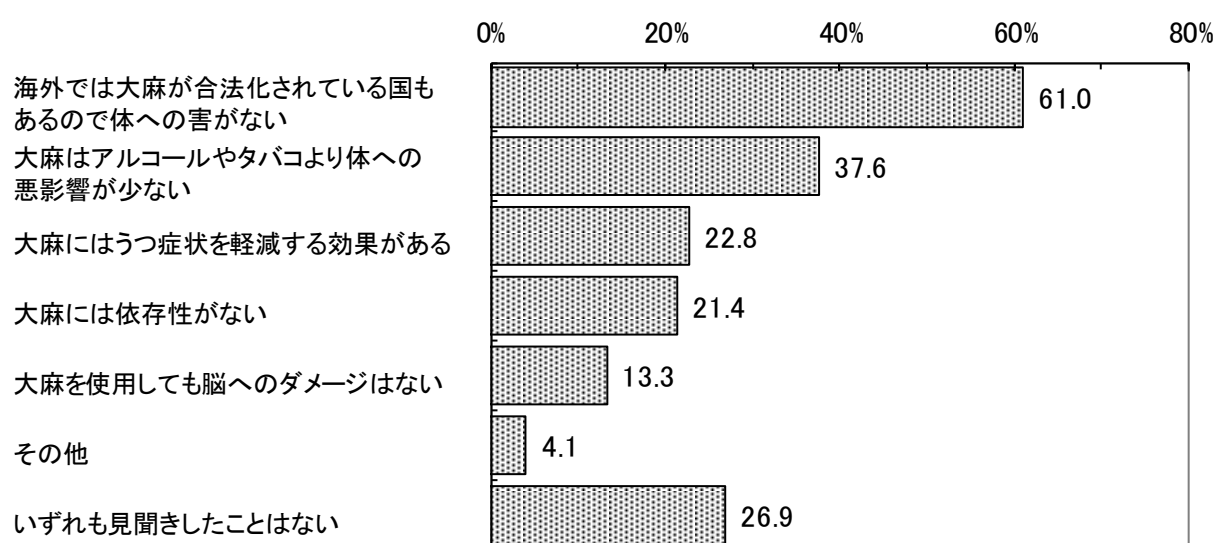
Q1で「大麻」を選択した方に、大麻に関して知っていることを聞いたところ、「他の薬物と同様に、有害性や依存性がある」(86.9%)が9割近くで最も多く、「免許を受けた者以外が国内で大麻を栽培することや、所持することは禁止されており、これらの行為を行った場合は罰せられる」(78.4%)が8割近く、以下、「使用すると知覚が変化したり、集中力が低下したり、情緒不安定になったりすることがある」(72.3%)「長期間使用すると知的機能の低下や、無動機症候群(何もやる気がしない)、大麻精神病(幻覚、妄想などの症状が出る)を引き起こすことがある」(68.8%)などと続いている。

大麻について見聞きしたことがある情報

Q3 Q1で「大麻」を選択した方に伺います。

近年、大麻事犯の検挙人員が増加傾向にあり、この原因の1つとして、インターネット等で大麻について誤った情報が広まっていることがあります。大麻に関して、あなたが見聞きしたことがある情報はありますか。次の中からいくつでも選んでください。

(MA) (n=487)



【調査結果の概要】

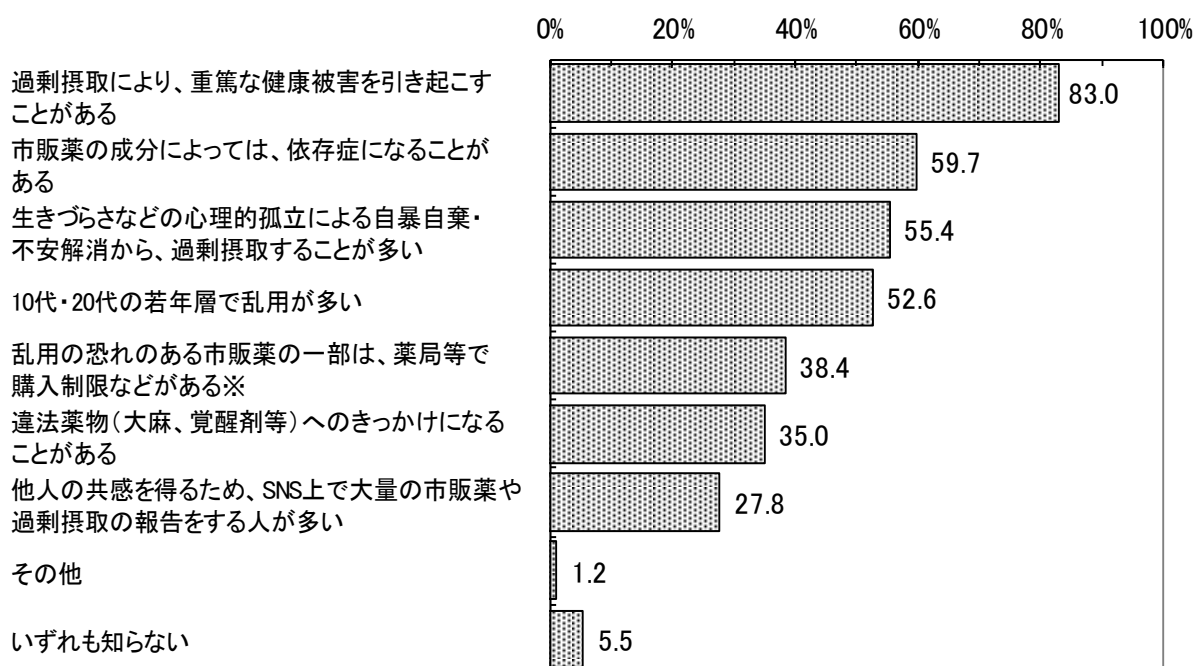
Q1で「大麻」を選択した方に、大麻について見聞きしたことがある情報について聞いたところ、「海外では大麻が合法化されている国もあるので体への害がない」(61.0%)が6割を超えて最も高く、以下、「大麻はアルコールやタバコより体への悪影響が少ない」(37.6%)、「大麻にはうつ症状を軽減する効果がある」(22.8%)などと続いている。

なお、「いずれも見聞きしたことはない」(26.9%)は3割近くであった。

市販薬の過剰摂取について知っていること

Q 4 近年、市販薬の過剰摂取（オーバードーズ）が社会問題化しています。市販薬の過剰摂取についてあなたが知っていることは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

(MA) (n=489)



※国が指定する「濫用等のおそれのある医薬品」については、法令等により、薬局やドラッグストアでは、薬剤師等が顧客に対して、販売時の数量制限や他店舗での購入状況の確認などを行う必要があります。

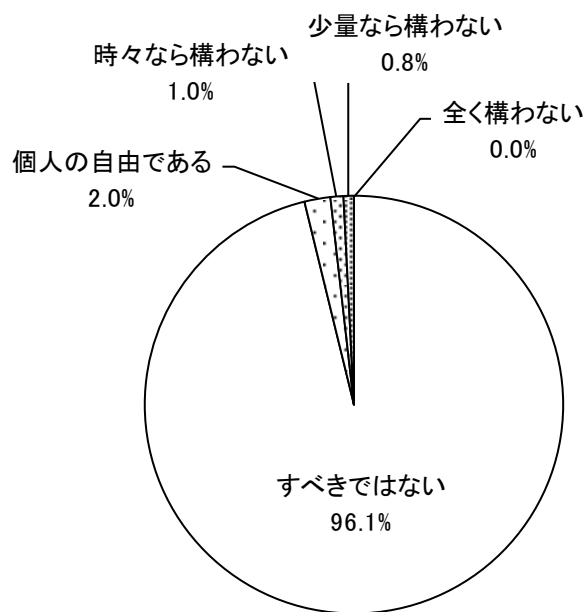
【調査結果の概要】

市販薬の過剰摂取について知っていることを聞いたところ、「過剰摂取により、重篤な健康被害を引き起こすことがある」(83.0%)が8割を超えて最も高く、以下、「市販薬の成分によっては、依存症になることがある」(59.7%)、「生きづらさなどの心理的孤立による自暴自棄・不安解消から過剰摂取することが多い」(55.4%)などと続いている。

市販薬の過剰摂取への意識

Q 5 市販薬を過剰摂取（オーバードーズ）することについて、どう思いますか。
次の中からあなたの考えに近いものを選んでください。

(n=489)



【調査結果の概要】

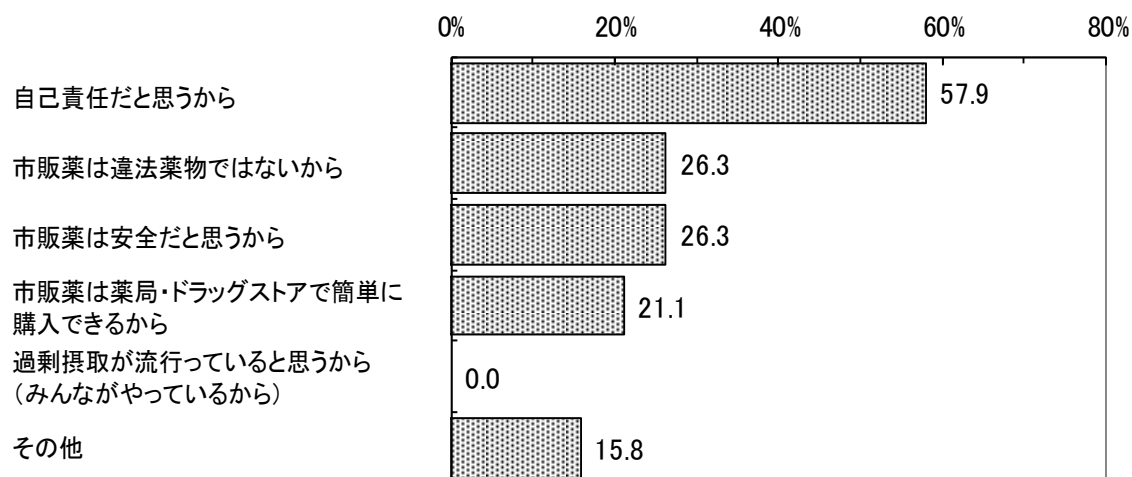
市販薬を過剰摂取することについて聞いたところ、「すべきでない」(96.1%)が9割半ばで最も高く、以下、「個人の自由である」(2.0%)、「時々なら構わない」(1.0%)などと続いている。

市販薬の過剰摂取を構わないとする理由

Q6 Q5で「少量なら構わない」「時々なら構わない」「全く構わない」「個人の自由である」を回答した方に伺います。

市販薬を過剰摂取することは構わないとする理由は何ですか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。

(MA) (n=19)



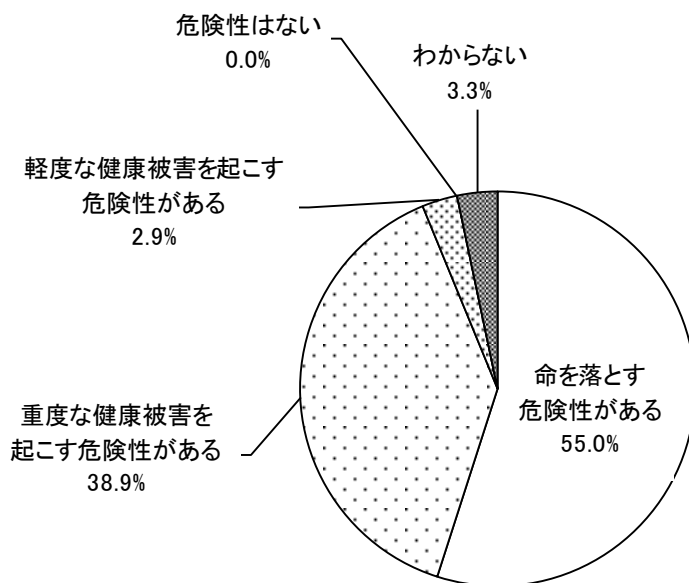
【調査結果の概要】

Q5で「少量なら構わない」「時々なら構わない」「全く構わない」「個人の自由である」を回答した方に、市販薬の過剰摂取することを構わないとする理由について聞いたところ、「自己責任だと思うから」(57.9%)が約6割で最も高く、以下、「市販薬は違法薬物ではないから」と「市販薬は安全だと思うから」(26.3%)などと続いている。

市販薬の過剰摂取の危険性

Q7 あなたは、市販薬を過剰摂取（オーバードーズ）した場合の危険（有害）性についてどのようにお考えですか。次の中からあなたの考えに近いものを選んでください。

(n=489)

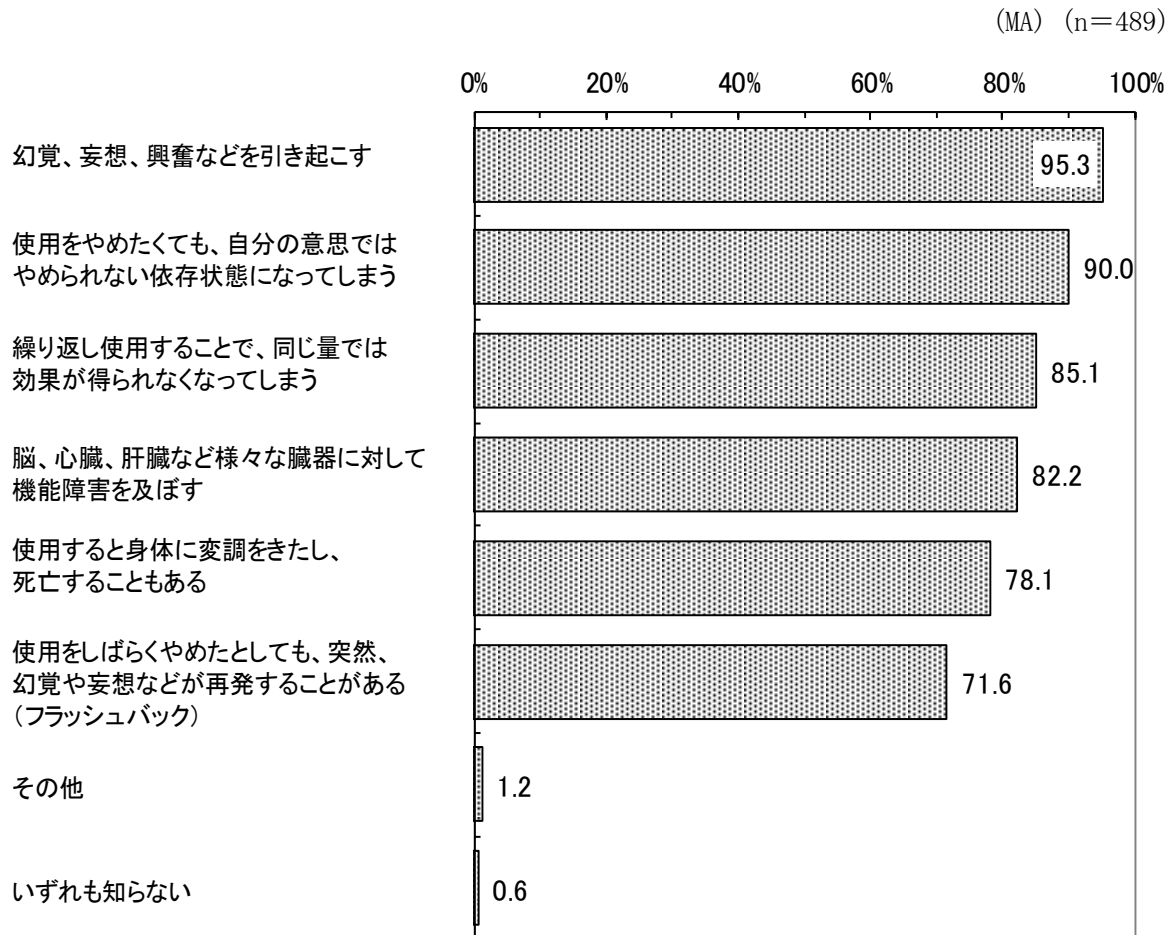


【調査結果の概要】

市販薬を過剰摂取した場合の危険（有害）性について聞いたところ、「命を落とす危険性がある」（55.0%）が5割半ばで最も高く、以下、「重度な健康被害を起こす危険性がある」（38.9%）、「軽度な健康被害を起こす危険性がある」（2.9%）などと続いている。

薬物を使った場合の心身への影響について知っていること

Q8 あなたは薬物を使った場合に、心身に影響があることを知っていますか。次の中から知っていることをいくつでも選んでください。

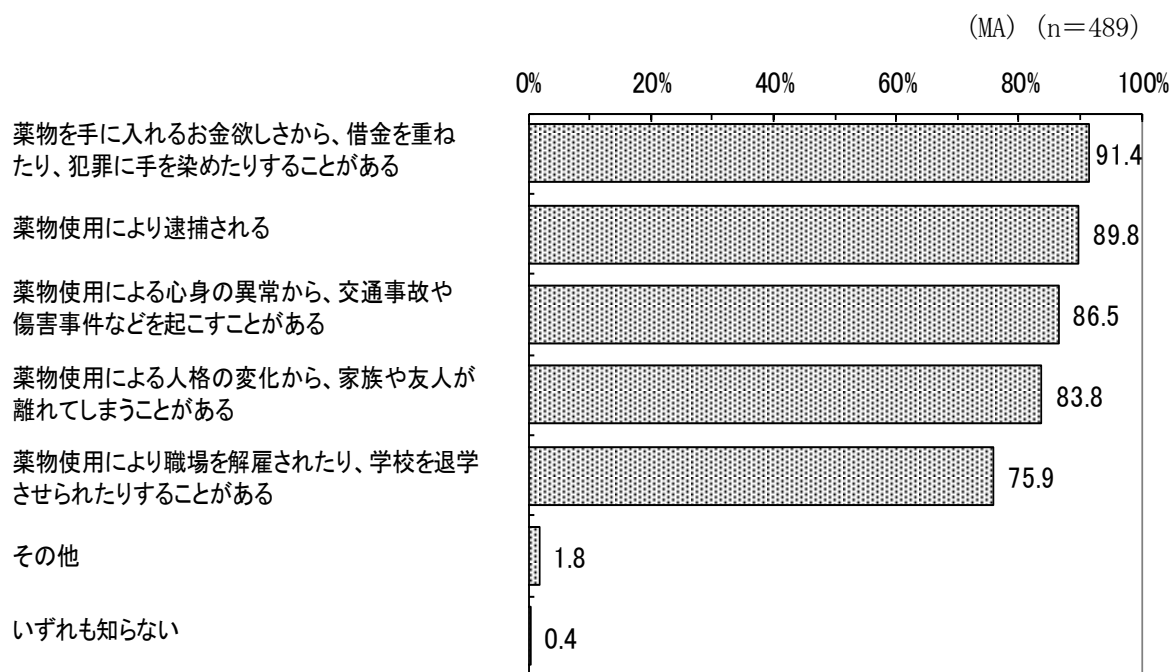


【調査結果の概要】

薬物を使った場合の心身への影響について知っていることを聞いたところ、「幻覚、妄想、興奮などを引き起こす」(95.3%)が9割半ばで最も高く、以下、「使用をやめたくても、自分の意思ではやめられない依存状態になってしまう」(90.0%)、「繰り返し使用することで、同じ量では効果が得られなくなってしまう」(85.1%)などと続いている。

薬物を使った場合の社会生活への影響について知っていること

Q9 あなたは医療目的以外に薬物を使った場合に、社会生活に影響を及ぼすことがあることを知っていますか。次の中から知っているものをいくつでも選んでください。



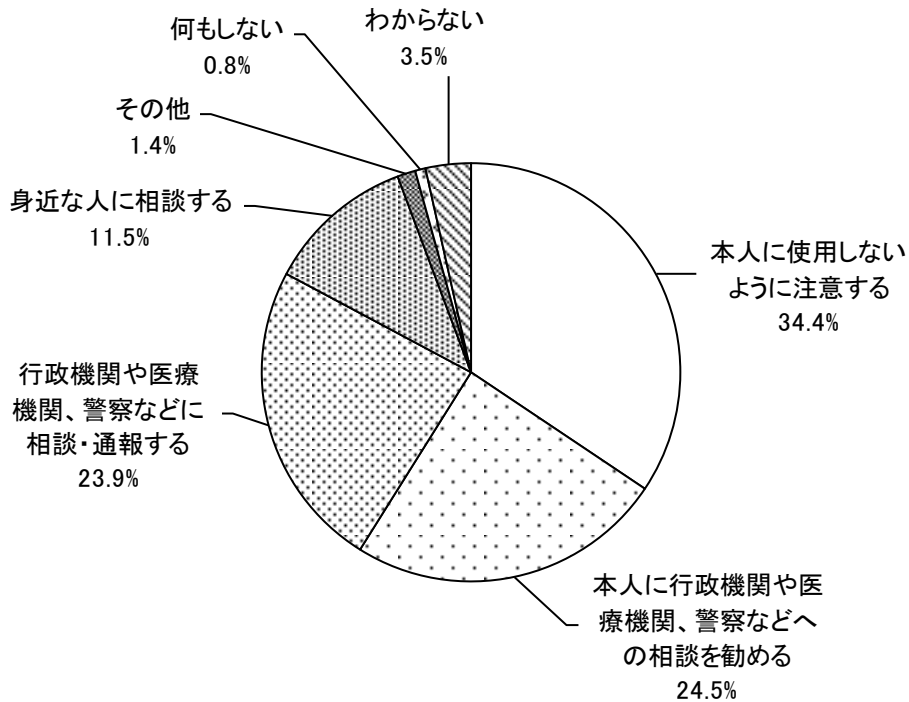
【調査結果の概要】

薬物を使った場合の社会生活への影響について知っていることを聞いたところ、「薬物を手に入れるお金欲しさから、借金を重ねたり、犯罪に手を染めたりすることがある」(91.4%)が9割を超えて最も高く、以下、「薬物使用により逮捕される」(89.8%)、「薬物使用による心身の異常から、交通事故や傷害事件などを起こすことがある」(86.5%)などと続いている。

周りに薬物を使用している人がいた場合の行動

Q10 家族や友人などあなたの周りに薬物を使用している人がいた場合、あなたはまず何をしますか。

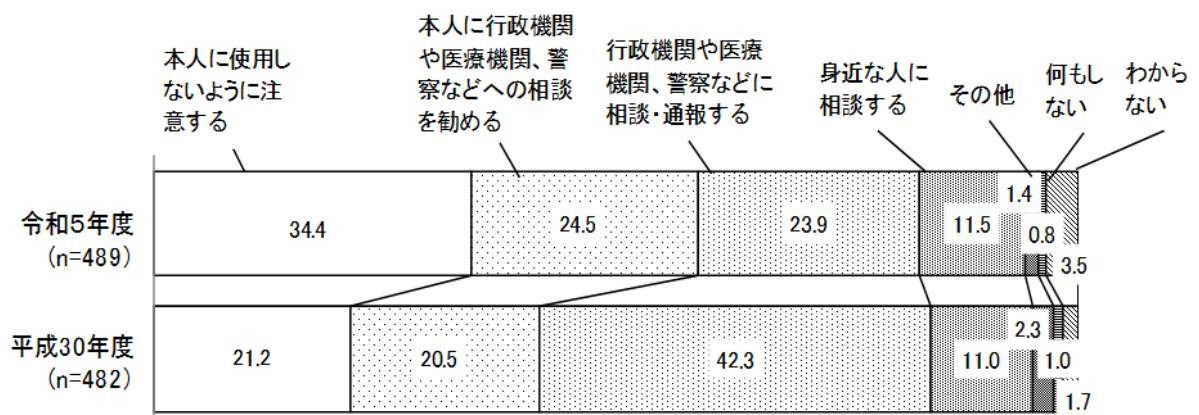
(n=489)



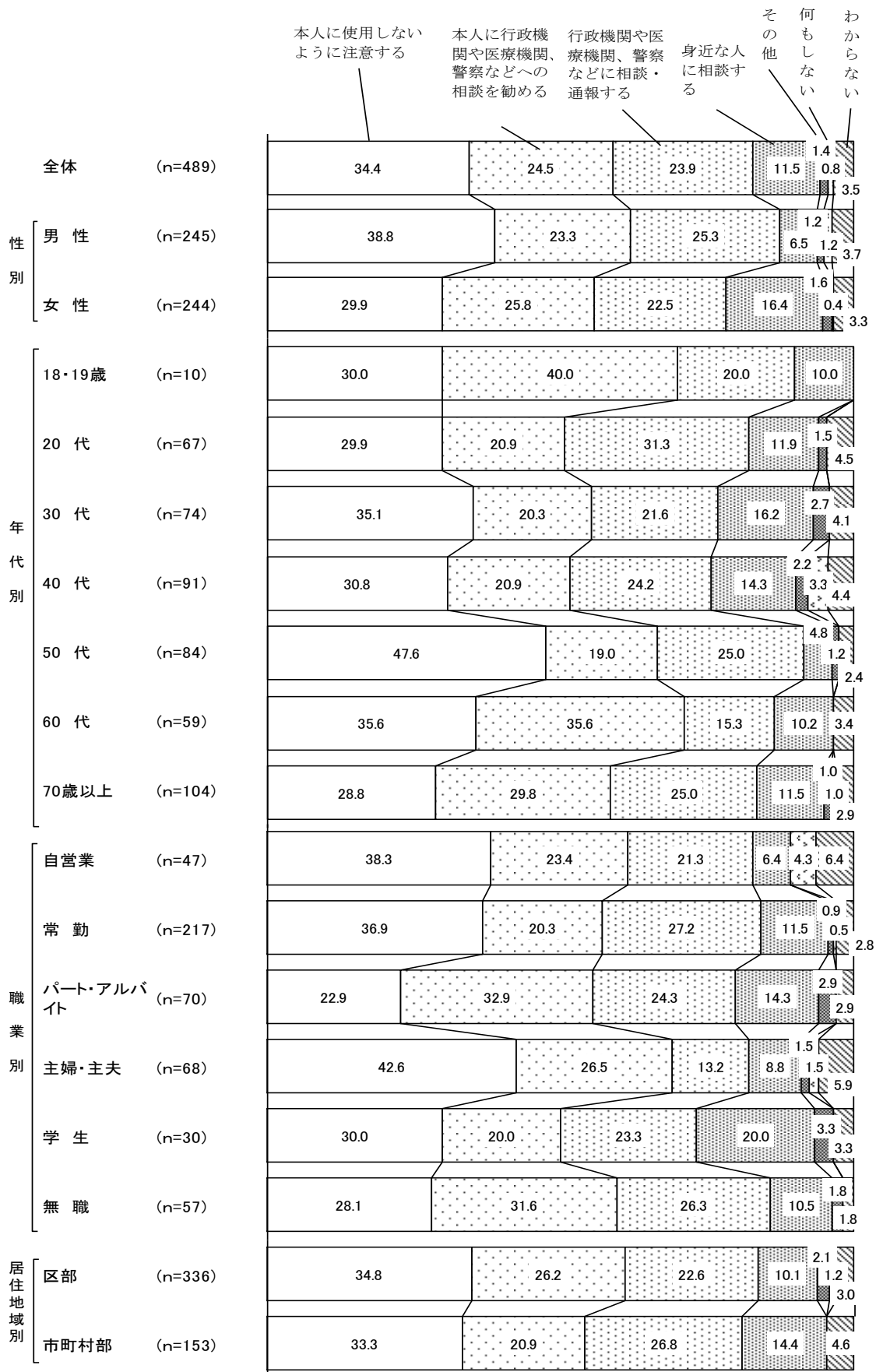
【調査結果の概要】

薬物を使用している人がいた場合の行動を聞いたところ、「本人に使用しないように注意する」(34.4%)が3割半ばで最も高く、以下、「本人に行政機関や医療機関、警察などへの相談を勧める」(24.5%)、「行政機関や医療機関、警察などに相談・通報する」(23.9%)、「身近な人に相談する」(11.5%)などと続いている。

◎前回調査との比較 (前回：平成30年9月実施「薬物乱用に対する意識」)



◎周りに薬物を使用している人がいた場合の行動（属性別）

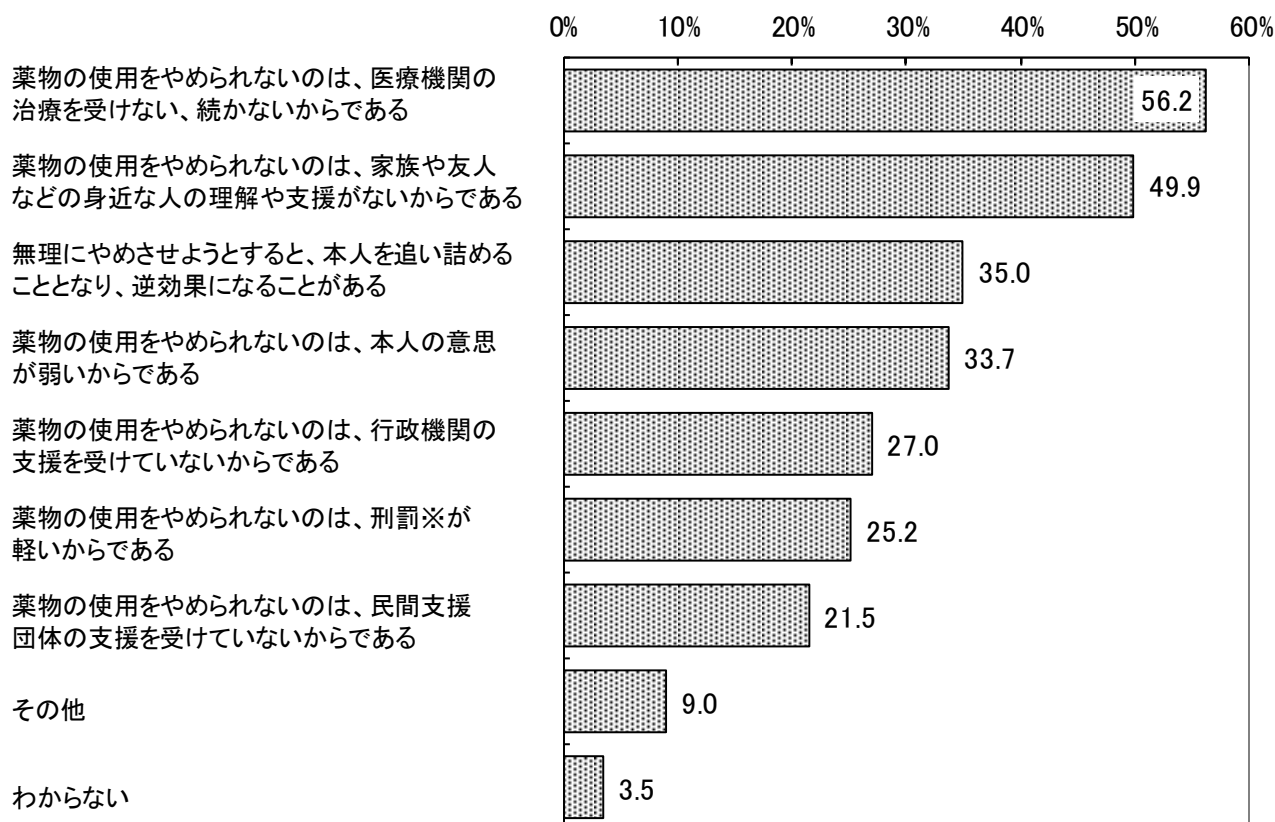


※未回答の選択肢については、0%表示を省略

薬物の使用をやめられない人に対する意識

Q11 薬物の使用をやめられない人について、あなたの考えに近いものは何ですか。
次の中からいくつでも選んでください。

(MA) (n=489)



※ 刑罰：例えば、自身が使用する目的で覚醒剤を所持した場合は10年以下の懲役（覚醒剤取締法）、大麻を所持した場合は5年以下の懲役（大麻取締法）、などとなっています。

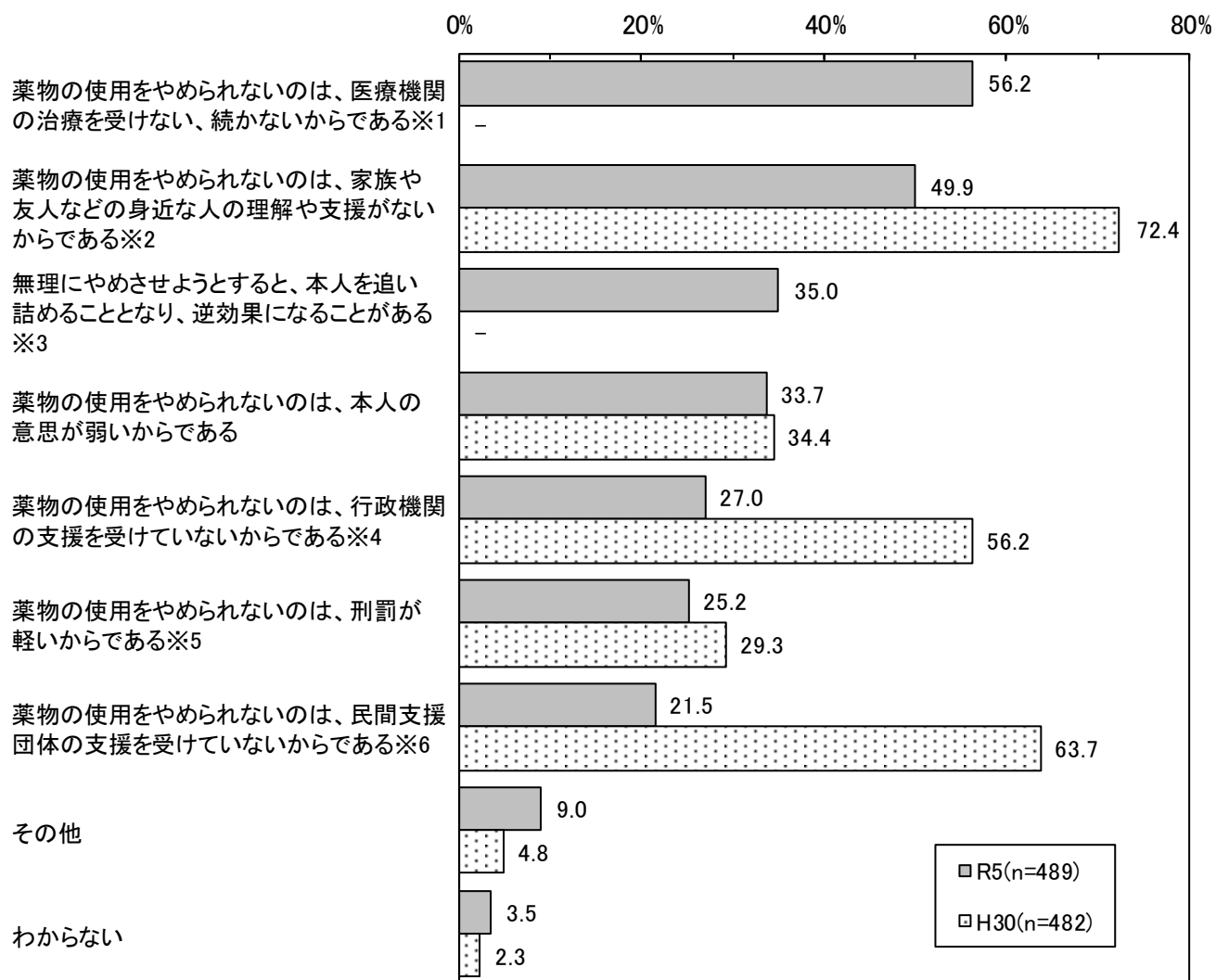
【調査結果の概要】

薬物の使用をやめられない人に対する意識を聞いたところ、「薬物の使用をやめられないのは、医療機関の治療を受けない、続かないからである」(56.2%)が5割半ばで最も高く、以下、「家族や友人などの身近な人の理解や支援がないからである」(49.9%)、「無理にやめさせようとすると本人を追い詰めることになり、逆効果になることがある」(35.0%)などと続いている。

◎その他の主な意見

- ・安易に手に入り、精神的に楽な方へとすぐ逃げられるから
- ・薬物に手を染めざるを得ない心理状態になってしまうなど、社会的要因がある
- ・意思とは関係なく、依存症になると抜け出すのが困難なため
- ・生きにくさ、社会からの孤立をしているから

◎前回調査との比較（前回：平成30年9月実施「薬物乱用に対する意識」）

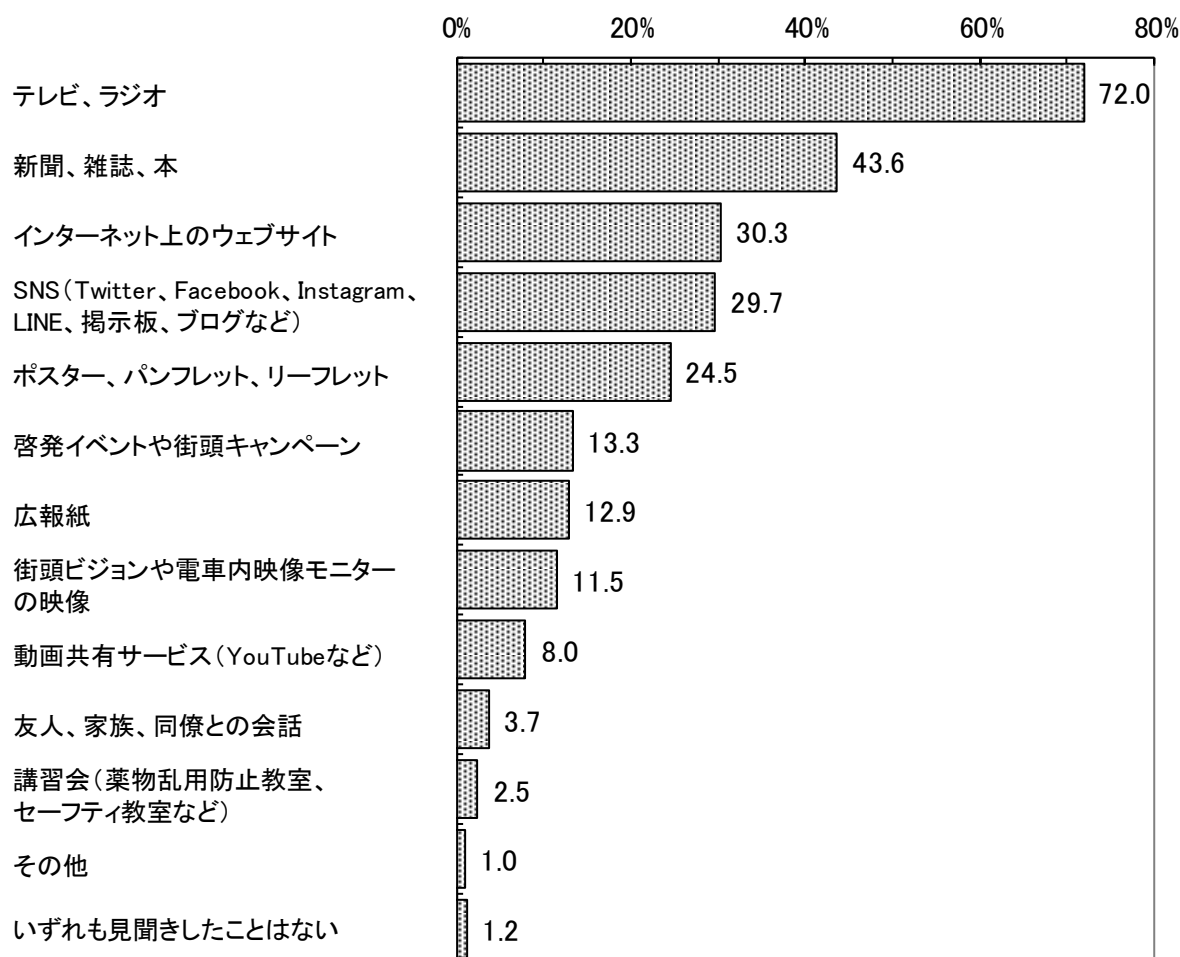


- ※1 前は選択肢なし
- ※2 前は「薬物の使用をやめるためには、家族や友人などの身近な人の理解や支援が重要である」で集計
- ※3 前は選択肢なし
- ※4 前は「薬物の使用をやめるためには、行政機関の支援が必要である」で集計
- ※5 前は「薬物の使用をやめられないのは、刑罰が軽すぎるからである」で集計
- ※6 前は「薬物の使用をやめるためには、民間支援団体(ダルク、家族会など)の支援が必要である」で集計

薬物に関する情報を見聞きする機会

Q12 あなたが薬物に関する情報について、よく見聞きする機会や媒体は何ですか。
頻度の高いものを3つまで選んでください。

(3MA) (n=489)



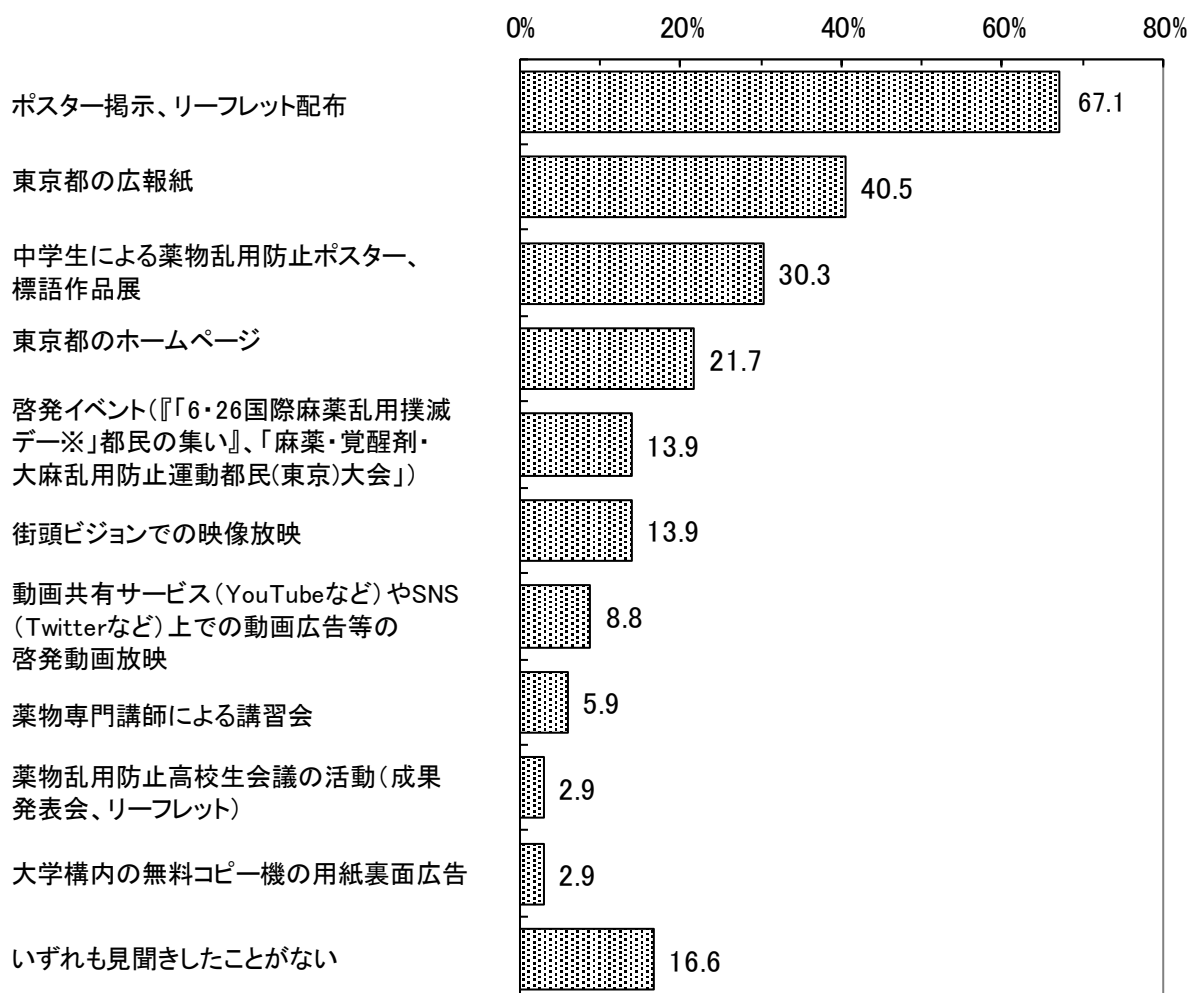
【調査結果の概要】

薬物に関する情報を見聞きする機会について聞いたところ、「テレビ、ラジオ」(72.0%)が7割を超えて最も高く、以下、「新聞、雑誌、本」(43.6%)、「インターネット上のウェブサイト」(30.3%)、「SNS (Twitter、Facebook、Instagram、LINE、掲示板、ブログなど)」(29.7%)などと続いている。

知っている東京都の啓発活動

Q13 東京都が実施している薬物乱用防止の啓発活動について、あなたが知っているものは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

(MA) (n=489)



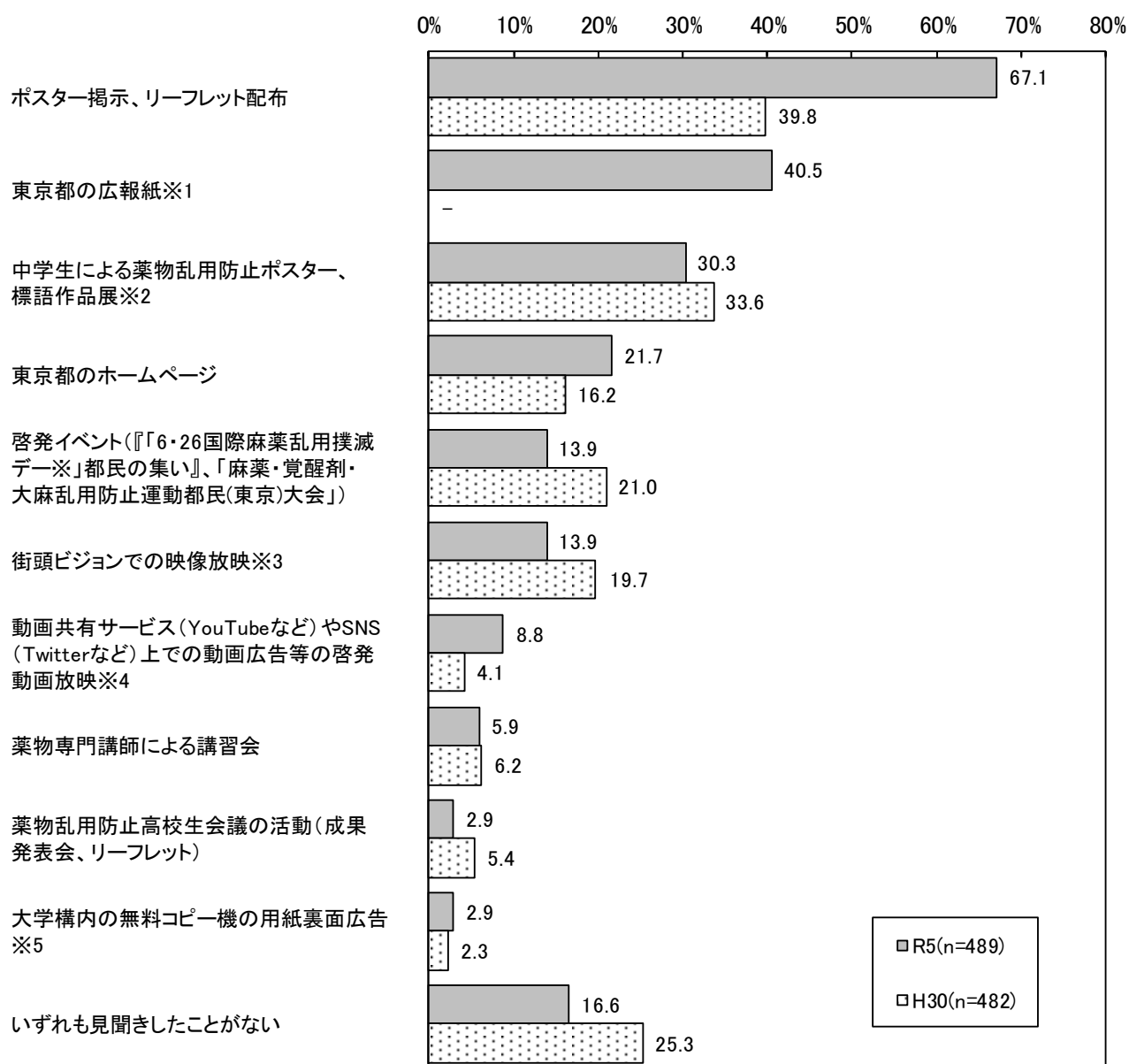
※6・26国際麻薬乱用撲滅デー：1987年6月にウィーンで開催された国連の「国際麻薬会議」において、6月26日を「国際麻薬乱用撲滅デー」とする旨決議されました。この決議により、毎年6月26日は各国において麻薬対策への取組が行われており、わが国でも街頭啓発活動や国連募金活動を展開しています。

【調査結果の概要】

薬物乱用防止の都の啓発活動で知っているものを聞いたところ、「ポスター掲示、リーフレット配布」(67.1%)が7割近くで最も高く、以下、「東京都の広報紙」(40.5%)、「中学生による薬物乱用防止ポスター、標語作品展」(30.3%)、「東京都のホームページ」(21.7%)などと続いている。

なお、「いずれも見聞きしたことはない」(16.6%)は1割半ばだった。

◎前回調査との比較（前回：平成30年9月実施「薬物乱用に対する意識」）



※6・26国際麻薬乱用撲滅デー：1987年6月にウィーンで開催された国連の「国際麻薬会議」において、6月26日を「国際麻薬乱用撲滅デー」とする旨決議されました。この決議により、毎年6月26日は各国において麻薬対策への取組が行われており、わが国でも街頭啓発活動や国連募金活動を展開しています。

※1 前は選択肢なし

※2 前は「中学生による薬物乱用防止ポスター、標語の作品（作品展、ポスターなど）」で集計

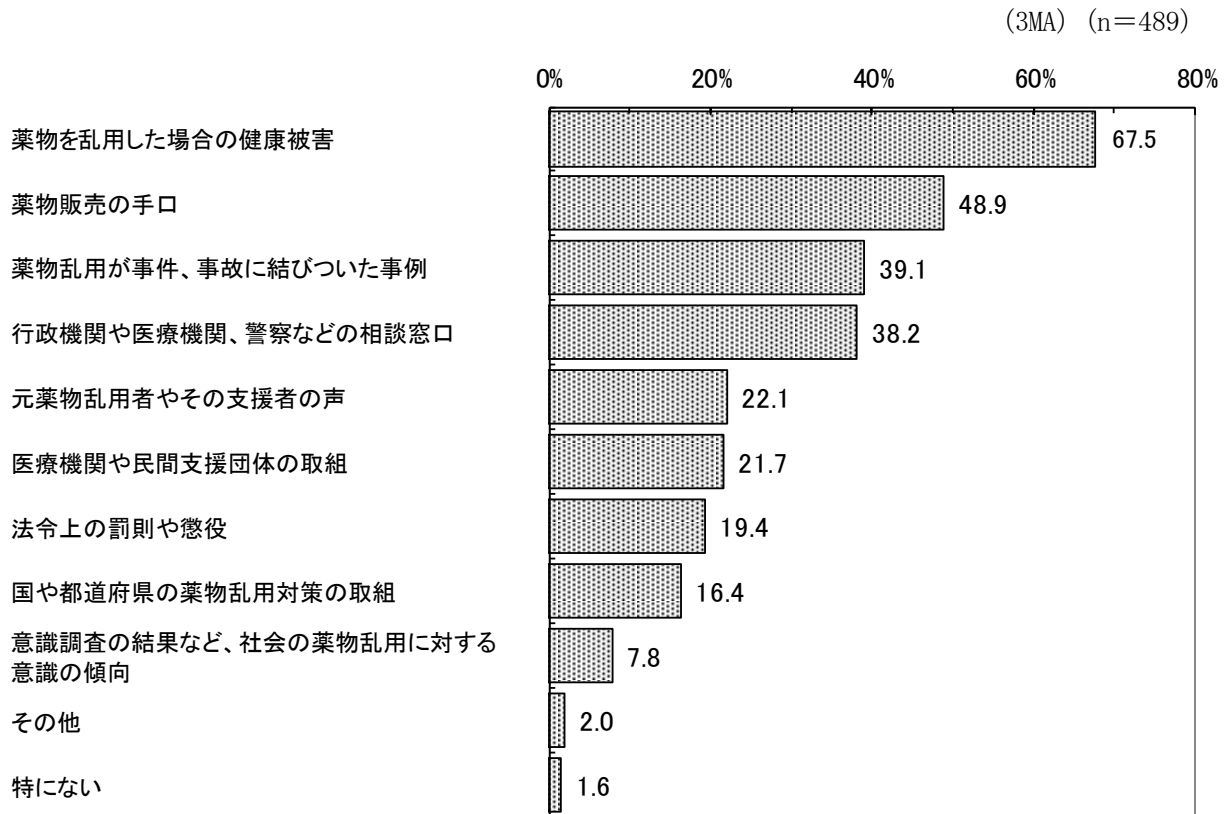
※3 前は「街頭ビジョンや電車内映像モニターでの映像放映」で集計

※4 前は「動画投稿サイト（YouTubeなど）やインターネット動画広告等の啓発動画放映」で集計

※5 前は「大学内の無料コピー機用の用紙裏面広告」で集計

薬物乱用について知りたいこと

Q14 あなたやあなたの周りの人が薬物に手を出さないようにするために、あなたが知っておきたいと思うことは何ですか。次の中から3つまで選んでください。

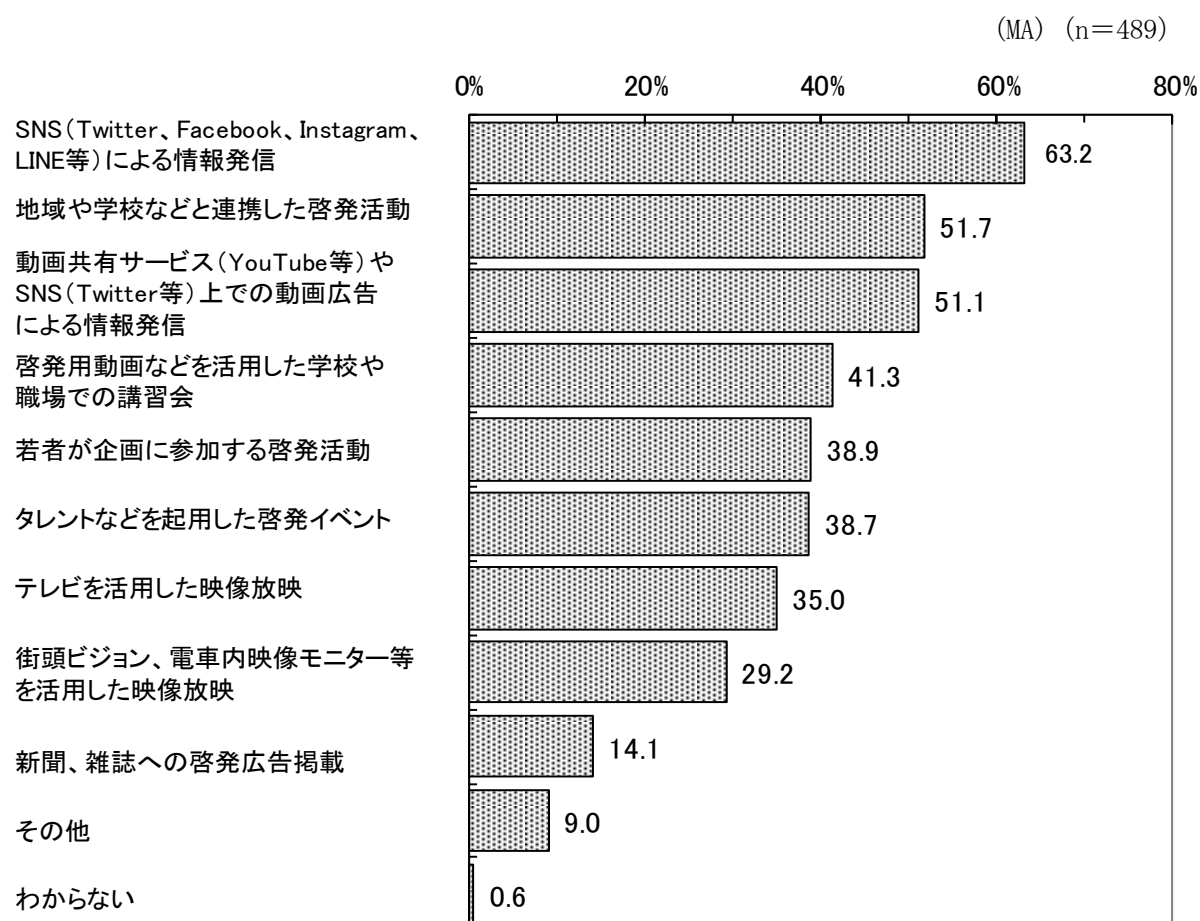


【調査結果の概要】

薬物乱用について知りたいと思うことを聞いたところ、「薬物を乱用した場合の健康被害」(67.5%)が7割近くで最も高く、以下、「薬物の販売の手口」(48.9%)、「薬物乱用が事件、事故に結びついた事例」(39.1%)、「行政機関や医療機関、警察などの相談窓口」(38.2%)などと続いている。

若者に対する啓発のアプローチとして効果的なもの

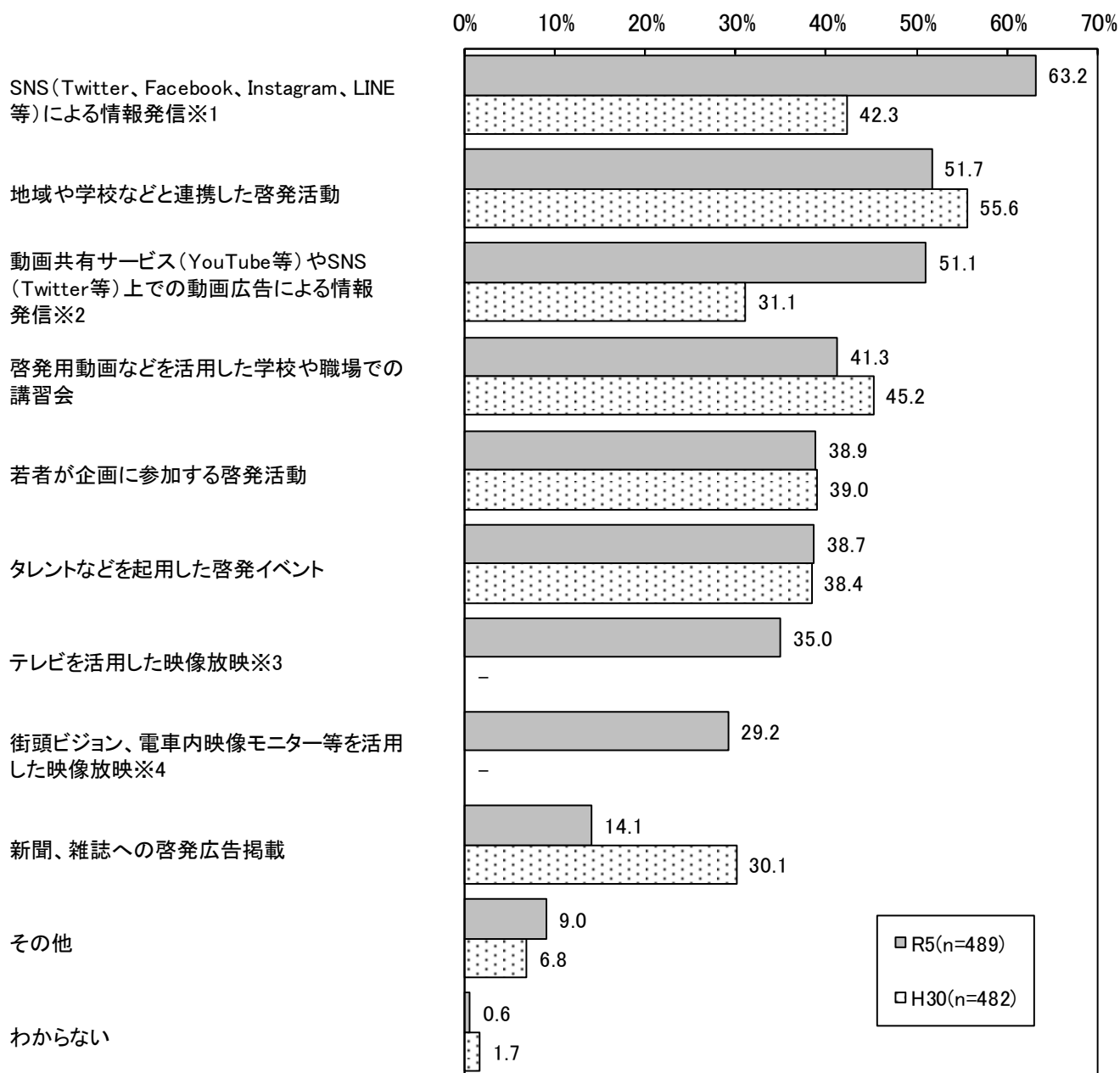
Q15 薬物乱用防止の啓発活動について、若者の心に響き、印象に残る啓発をするには、どのような方法が効果的だと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。



【調査結果の概要】

若者に対する啓発のアプローチとして効果的なものについて聞いたところ、「SNS (Twitter、Facebook、Instagram、LINE 等)による情報発信」(63.2%)が6割を超えて最も高く、以下、「地域や学校などと連携した啓発活動」(51.7%)、「動画共有サービス (YouTube 等) や SNS (Twitter 等) 上での動画広告による情報発信」(51.1%)「啓発用動画などを活用した学校や職場での講習会」(41.3%)、などと続いている。

◎前回調査との比較（前回：平成30年9月実施「薬物乱用に対する意識」）



※1 前は「SNS(Twitter、Facebook、Instagram、LINE、掲示板、ブログなど)による情報発信」で集計

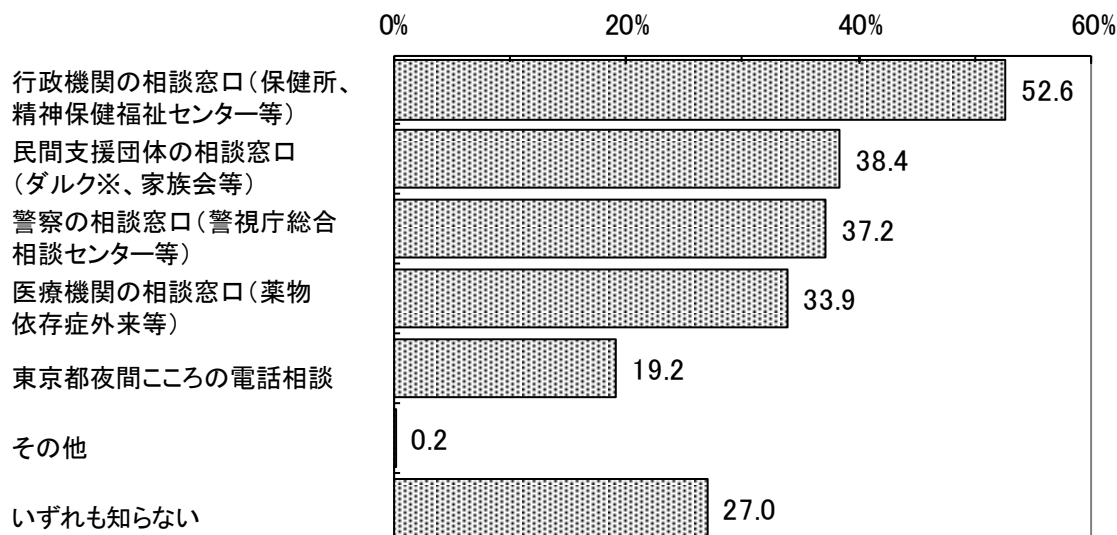
※2 前は「動画投稿サイト(YouTubeなど)やインターネット動画広告等の啓発動画放映」で集計

※3、4 前は選択肢なし

知っている薬物に関する相談窓口

Q16 あなたは、薬物に関する相談窓口があることを知っていますか。次の中から知っているものをいくつでも選んでください。

(MA) (n=489)



※ダルク(DARC)(DrugAddiction Rehabilitation Center)

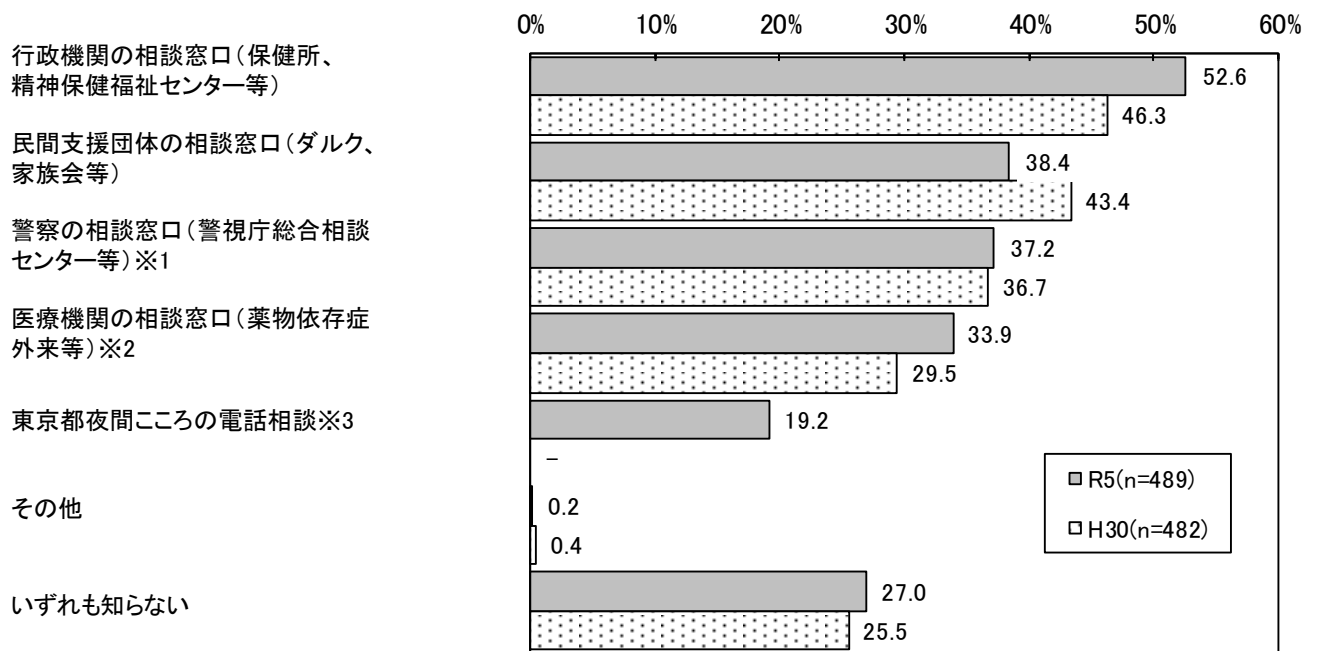
薬物依存者の薬物依存症からの回復と社会復帰支援を目的とした民間のリハビリテーション施設であり、薬物依存症の回復者が中心となって運営されています。

【調査結果の概要】

薬物に関する相談窓口で知っているものを聞いたところ、「行政機関の相談窓口(保健所、精神保健福祉センター等)」(52.6%)が5割を超えて最も高く、以下、「民間支援団体の相談窓口(ダルク、家族会等)」(38.4%)、「警察の相談窓口(警視庁総合相談センター等)」(37.2%)、「医療機関の相談窓口(薬物依存症外来等)」(33.9%)などと続いている。

なお、「いずれも知らない」(27.0%)は、3割近くだった。

◎前回調査との比較（前回：平成30年9月実施「薬物乱用に対する意識」）

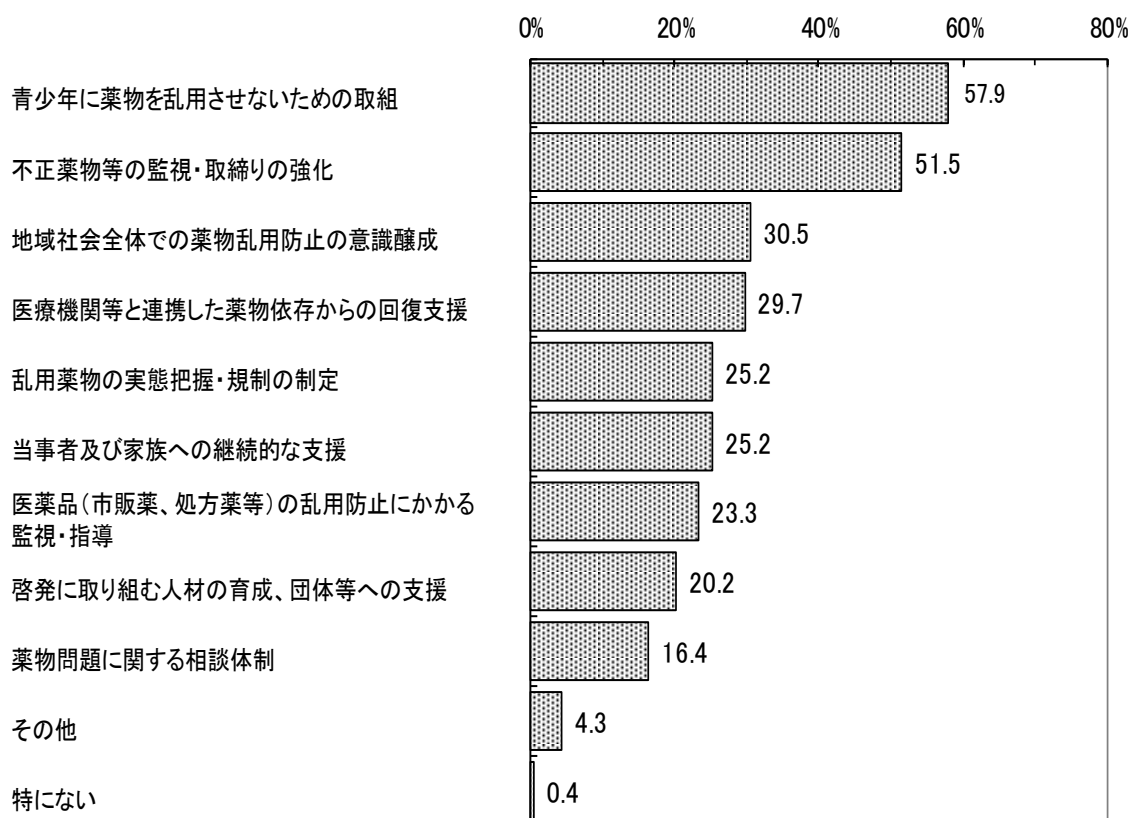


- ※1 前回調査では「警察の相談窓口(銃器薬物ホットラインなど)」で集計
- ※2 前回調査では「医療機関の相談窓口(薬物依存症外来など)」で集計
- ※3 前は選択肢なし

力を入れてほしい薬物乱用防止対策

Q17 薬物乱用を社会からなくすために、あなたが今後、特に東京都に力を入れてほしいと思う対策は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

(3MA) (n=489)



【調査結果の概要】

東京都に力を入れてほしい薬物乱用防止対策を聞いたところ、「青少年に薬物を乱用させない取組」(57.9%)が6割近くで最も高く、以下、「不正薬物等の監視・取締りの強化」(51.5%)、「地域社会全体での薬物乱用防止の意識醸成」(30.5%)などと続いている。

薬物乱用について（自由意見）

Q18 薬物乱用防止対策や啓発活動などについて、あなたのご意見を自由にお書きください。

(n=489)

- | | |
|-----------------------|-------|
| (1) 啓発活動やPR | 165 件 |
| (2) 若年層への取組 | 96 件 |
| (3) 薬物に対する意識や背景 | 90 件 |
| (4) 薬物乱用防止への取組や指導・取締り | 81 件 |
| (5) 薬物に関する相談・支援 | 48 件 |
| (6) その他 | 9 件 |

(主なご意見)

(1) 啓発活動やPR 165 件

- もう少し啓発活動に力を入れた方が良いと思います。薬物を乱用してしまう人の中には、ダイエット目的や、寂しさや生きづらさから薬物乱用に手を染めてしまう人も居るかも知れないので、薬物乱用になってしまう前に、周りの人や大人に頼ったり話を聞いてもらうべきだと思います。また、使用を辞めたくても辞められない人への支援等も積極的に行っていくべきだと思います。(女性 20代 板橋区)
- 啓発のポスターや広告よりも、実際の事例を扱ったドキュメンタリーのような啓発動画が効果的であると、個人的に思う。(男性 20代 大田区)
- SNS が活発に利用される中、今まで以上にオーバードーズなどの情報をネットで得られるようになってしまっている。啓発活動を通じて、正しい薬の使い方や悪影響を知って貰う必要がある。(男性 20代 葛飾区)
- 薬物乱用による悪影響は理解していますが、薬物乱用を防止するための啓発について見聞きしたことが少ないと気づきました。意識していないだけかもしれませんが、目につきやすいところ(SNS の広告やTV CM など)で積極的に発信するとよいのかなと感じました。(女性 30代 板橋区)
- インターネット、SNS での間違った情報が、若者に流れ、それを鵜呑みにしてしまう危険があるので、情報規制や正しい情報を知らせることが大切。(女性 40代 新宿区)
- 薬物と知らずに手を染めてしまったり、断れない状況から一度くらいと受け入れてしまわないよう、あらゆるきっかけの事例や、健康被害、経験談などを広く情報発信して欲しい。(女性 40代 足立区)

- 子どもや青少年への啓発だけでなく、地域の大人も関わったり、親子で一緒に学べる機会が定期的にあつたりすると、地域や家庭内での意識も多少高まるのではないかと思います。
(女性 40代 狛江市)
- 薬物に関する正しい知識が全般的に不足していると思うので、危険性はもちろん、刑罰についても知ることができる機会があれば良いと思います。
(男性 40代 江東区)
- SNS等において薬物乱用に関する誤った情報が多発しており、これらに対する明確な反論や科学的根拠に基づく否定的意見等を(個人ではなく、あえて)公益性のある団体、機関等が積極的に発信しても良いのではないかと思います。
(男性 50代 台東区)
- 薬物について、若者はもちろん、保護者においても実際は余り知らない可能性があるため、その恐ろしさや、ほんの気の迷いからどんなことが起きるかを周知する必要があります。高校生への道徳教育の場や大学でのシンポジウム開催、地域のイベントや医療機関でのパンフレット配布などで、案外身近な問題だと認識してもらうきっかけ作りをしてはどうかと思います。地道で時間のかかることとは思いますが、もしも身の回りで起こってしまったらを皆で考える機会が必要であり、薬の依存性についても繰り返し説いていくのが良いと思います。
(女性 60代 島しょ)
- この問題に対して全く無知、無関心でした。身近に手に入る薬でも乱用すれば、起こりうることなので、啓発運動が必要だと思います。
(女性 70歳以上 品川区)
- 青少年を薬物汚染から守るため、学校・地域社会と警察の協力を頂き啓発活動を徹底させて行きたい。
(男性 70歳以上 江東区)

(2) 若年層への取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・96件

- 若者の間では、目に見える形で心の疲弊が見えなければそのSOSに気が付いてもらえないと感じている人が多いように思う。薬を多量に飲んでいることで心配的になれると思っている人がいる。起こってからでは遅いので、日頃から処方された薬は決められた時間に決められた量摂取するようにしたり、夜の東京では危険な場所が多いため、できる限り近づかないよう心がけている。授業で薬物の危険性を学んだ際、映像を観たことでより恐ろしさを肌で感じる事ができた。映像を用いての啓発活動は大いに有効であると感じる。
(女性 10代 新宿区)
- 私が小学生、中学生の時は授業にて「薬物の危険性について」動画を見たり、専門家をお呼びしての講習を受けました。しかし、高校ではそのような取り組みがありませんでした。また、現在大学生ですが、そのような講義を取らない限り学ぶことはありません。自由が増える高校生、大学生は、薬物乱用の危険性が高いと思います。必修の授業などで多くの人が正しい知識を持てるようにすることが、若者への防止対策に繋がると考えます。
(女性 10代 多摩市)

○ 小～高校生の時に見た、「薬物乱用するとどうなるか」のビデオが記憶に残っています。対象が幼い頃からの啓発活動が有効なのではないかと思っています。

(女性 20代 足立区)

○ 市販薬や、病院でもらう薬などでも過剰摂取によって薬物乱用になってしまうことを知らない人が多いように感じる。義務教育の間で少し学んだ記憶はあるが、まだそこまで力を入れているように感じなかったので、もっと教育現場で学ぶ機会を持つべきだと思う。

(女性 20代 東村山市)

○ 小、中、高と薬物乱用防止の講義が年2回ずつ開催されていました。私自身、そのような教育を受けて薬物は危ないものである、また、市販の薬品でも使用方法を間違えれば危険であるという考えを前提として持っています。私の友人もそうだったので、小さい頃からの薬物乱用防止教室はとても効果が高いと感じています。(男性 20代 墨田区)

○ 私は小学生、中学生の時に都内の学校で薬物に関する授業を受けました。その時の記憶は今でも残っており、薬物に対する認識の第一歩となっています。学校施設での取り組みは継続しつつ、さらにその発展として、なぜタバコは認められているのか、なぜ海外では大麻の使用が一部認められているのか等、日本と世界の社会情勢などと結びつけてより広い視点から薬物に関する認識を深めることのできる活動があると良いのではないかと思います。

(男性 20代 世田谷区)

○ 学生時代で警察などから受けた薬物に関する講習会が今でも印象に残っています。幼い時から教育として情報をインプットさせることと、薬物依存者が社会復帰できるような仕組みづくりが大事だと思います。

(女性 30代 千代田区)

○ 子供の知識が足りずに手を染めるケースが多いように思う。軽い気持ちで人生が狂うことを分からせるような活動を、子供が見るチャンネル(TikTok など)で配信して欲しい。

(女性 40代 文京区)

○ 青少年においては 教育が大切だと思います。小学校から薬物乱用の恐ろしさを正しく知らせる必要がある。乱用して廃人になり死に至ることなどと命の大切さを学ばせる。更生して再出発する人にも受け皿は不可欠であるから。

(女性 60代 府中市)

○ 薬物乱用が若者に広がっている背景には、交友関係を通じて、興味本位にまたは断り切れずに手を出し、深みにはまっていくのがあるのではないのでしょうか。学校や地域で、薬物乱用の被害について詳しく説明し、けっして興味を起ささないような取組と、万一そうした勧誘を受けた場合の対処法について繰り返し広報するのが肝要だと思います。

(男性 70歳以上 豊島区)

(3) 薬物に対する意識や背景・・・・・・・・・・90 件

- 主に若者が中心のオーバードーズは家庭にも学校にも居場所がない人たちが多くのように感じます。薬物乱用防止に直接的に取り組むのも大切ですが、まずは若者への経済的・精神的支援が重要であると考えます。(女性 20代 大田区)
- 薬物乱用は一部の人が起こす特異な現象ではなく、誰にでも起こり得る問題ではないかと感じました。(女性 20代 中野区)
- 一度始めてしまうとアルコールなどと同様に自分の意思ではやめられないものだと理解をしています。(女性 20代 杉並区)
- 薬物乱用に走ってしまう根本的な原因(例えば家庭不和など)があれば、それらを解消するための取り組みもしていきたい。(男性 20代 墨田区)
- 薬物に手を出す人は、孤立無援、自暴自棄、刹那的・短絡的な思考で後先を考えないという印象。身近に自分を大切に感じてくれる家族や、自分が大切にしたいと思う存在があれば、それらが心の防波堤になる。良い人間関係が築けるように、他者に思いやりを持ちたい。他者への共感力を育む子育てを心掛けていきたい。防止策のために行政に何か望むより前に、自分でできる事を探していきたいと思う。(女性 40代 国分寺市)
- 他人事のように感じたりするが、実際はもっと身近な問題なのでそれに気づいて貰いたいです。(女性 60代 練馬区)

(4) 薬物乱用防止への取組や指導・取締り・・・・・・・・・・81 件

- 薬物が危険なことは理解している子も多いと思うが、実際の後遺症の例をより具体的に写真や動画、それを経験した本人がお話しするなどがあると頭に残りやすいのかなと感じた。(女性 20代 墨田区)
- 近年では著名人が薬物乱用によって逮捕されたりと薬物を乱用すると逮捕されるという事は誰でも知っている事だと思うが実際服用した場合にどうになってしまうのか。どれだけ依存性が高いのかを知っている人はそれ程多く無いと思います。ネットの誤った情報「ダイエットや眠気覚まし(勉強)に効果がある」、「一度だけなら大丈夫」など安易な気持ちで手を出して染まってしまう人が居るのも事実です。今後これまで以上の薬物の危険性の周知の徹底とともに薬物を取引させない対策、取り組みも必要になってくると私は考えます。(男性 20代 板橋区)
- インターネットにおける乱用映像の取締りを行うべきだと思います。最近では、オーバードーズしている映像をよく SNS で見ます。これ自体が促進になると思います。そういった取締りをやると効果的ではないかと感じます。(男性 30代 足立区)

- 今は子供や家族のそばに薬物の危険が及んでいるとは感じていないのですが、そのこと自体が危険なのだと思います。こんなに身近にまで危険が及んでいることを知らしめるような事例を発信するなど、もっと身近な危険なんだと感じさせるような活動をして欲しいです。
(女性 40代 文京区)
- 始まりはきっと友人等に勧められた等軽はずみなことかと思う。その軽い気持ちが始まらないような、最初の一回を踏み止まらせるような教育を若い頃から受けるのがいいと思う。子供のころ公共広告機構で薬物やめますか、人間やめますかという人間が骸骨になる映像のCMをやっていて、当時それを観て怖いと思った。だから私は薬物には一切興味を持たず今に至る。また、タバコを辞めるのに苦労したから、依存性のある物を断つには本人の意思や医療の力だけでは難しいと思う。だから最初の1回を絶対になくすような対策に全力を注いでほしいです。最初の1回がなければいつかはゼロになる。
(女性 40代 多摩市)
- 若い人が気軽に手に入れられてしまうシステムが一番問題だとおもう。具体策は思い浮かばないが、流通を断ち手に入れられにくいようにすべきでは。
(女性 50代 新宿区)

(5) 薬物に関する相談・支援・・・・・・・・・・・・・・・・48件

- 薬物が危険であることの若いうちからの十分な意識づけと、誤って薬物依存になった場合の相談、治療窓口が広く認知されるようになって欲しいと思う。
(女性 40代 中野区)
- 薬物を手にするきっかけとなる部分（精神的なことや周囲の影響等）をサポートして、そこに向かわないような社会を作るように、心の相談が身近に出来るような環境があるといいと感じています。東京は色々な土地からの人が集まる地域でもあるので、相談できる人が身近にいない人は老若男女問わず多いかと思います。人と人の繋がりが豊かな状況が理想です。
(女性 50代 中央区)
- 生活の中で人間関係や仕事の事などで不安や悩みを相談する事が出来ないと感じたりするとそのストレスから逃げ出したくなって薬物乱用などに逃げてしまってるのではないかな。悩み事などを抱えてる人がひどくなる前に相談出来る電話相談で悩み事を聞いてもらうだけでも違うと思うので、もっとその事を知ってもらう事が必要だと思う。
(女性 50代 江東区)
- 悩みなどから薬に手を出してしまうのではないかと思います。その前に相談することができるといいですね。
(女性 70歳以上 目黒区)